

第109回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和2年1月～3月期

今期の業況判断指数（日銀短観3月調査）は新型コロナウイルス感染拡大を受け、世界的に経済活動が停滞したことから、大企業・製造業で▲8と悪化し、マイナス圏に入るのは2013年3月調査（▲8）以来7年ぶりとなった。

こうしたなか、令和2年1月～3月期のトラック運送業においても、新型コロナウイルス渦のなか、経済活動停滞の影響は大きく、輸送量、営業収入、営業利益、経常損益は大幅に悪化したため、業界の景況感は▲81.7となり、前回（▲52.3）から29.4ポイント悪化した。

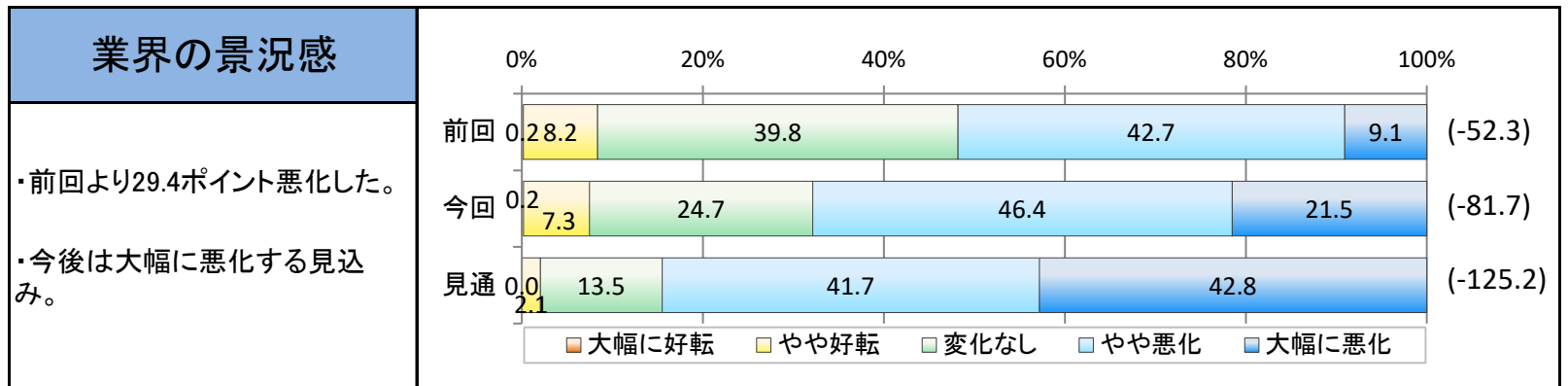
なお、今後の見通しは、燃料コスト負担は軽減されるものの、新型コロナウイルス感染拡大による物流への影響は甚大であり、極めて厳しい事業環境となることが見込まれることから、▲125.2（今回▲81.7）と43.5ポイントと大幅に悪化する見込みである。

令和2年5月13日

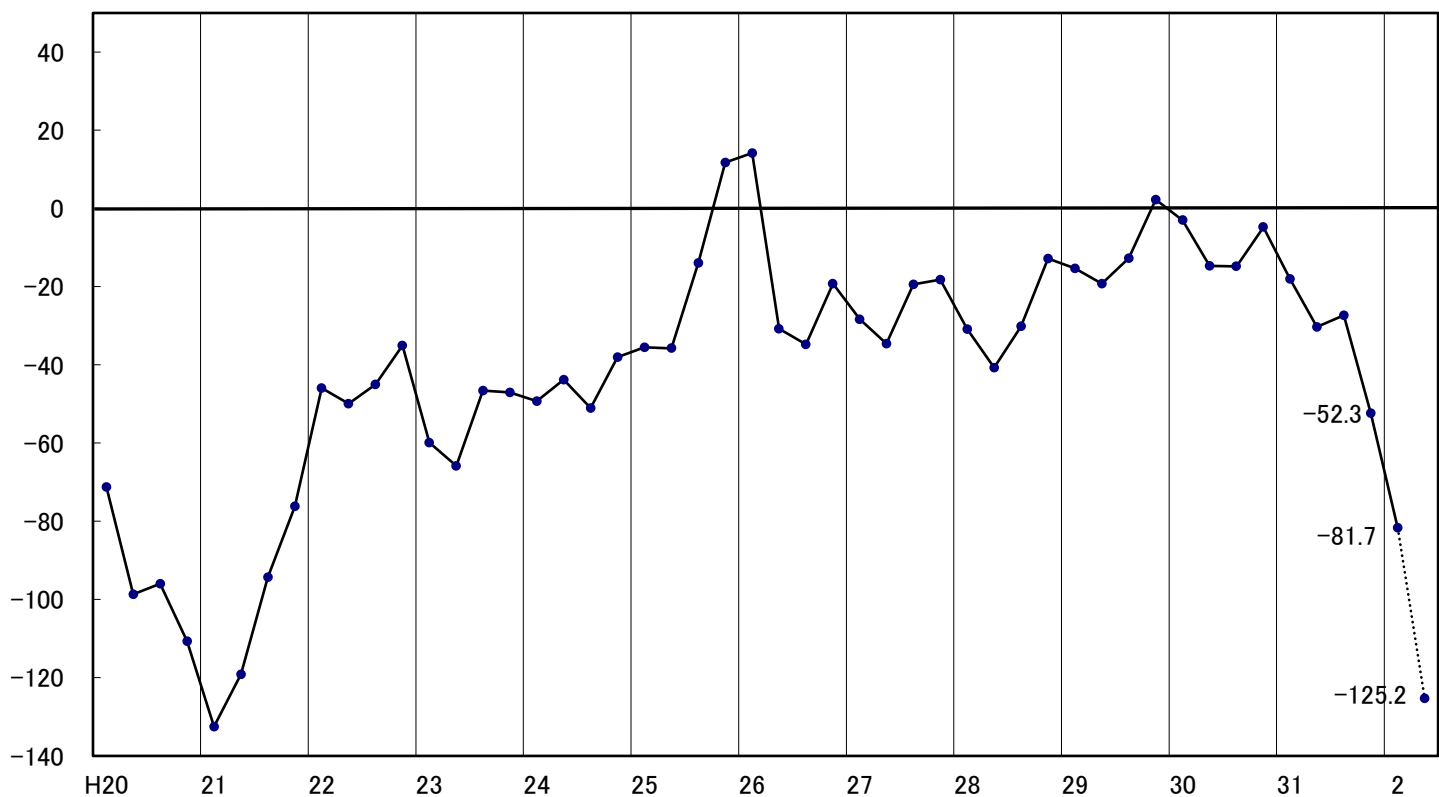
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感:今回(令和2年1月~3月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 業界の景況感は、「好転」とした事業者は7.5%(前回8.4%)、「悪化」とした事業者は67.9%(前回51.8%)で、判断指標は▲81.7となり、前回(▲52.3)から29.4ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 業界の景況感の今後の見通しは、▲125.2(今回▲81.7)と43.5ポイントと大幅に悪化する見込みである。



トラック運送業界の景況感の推移(H20以降)



(注1) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R1.10月~12月期)の状況、中段は今回(R2.1月~3月期)の状況、下段は今後(R2.4月~6月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) 各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = $\{(+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5)\} \div A \times 100$

2 共通の概況①:今回(令和2年1月～3月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実働率は▲55.5(前回▲28.7)と26.8ポイント悪化、実車率は▲51.4(前回▲28.4)と23.0ポイント悪化し、前回と比較して輸送効率は悪化した。 ・ 採用状況は▲4.7(前回▲7.5)と2.8ポイント上昇し、雇用状況(労働力の不足感)は50.7(前回81.8)と31.1ポイント低下し、労働力の不足感は弱くなった。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実働率は▲95.7(今回▲55.5)と40.2ポイント悪化、実車率は▲84.7(今回▲51.4)と33.3ポイント悪化し、輸送効率は一段と悪化する見込みである。 ・ 採用状況は▲19.1(今回▲4.7)と14.4ポイント悪化するが、輸送量減少の見込みから、雇用状況(労働力の不足感)は36.8(今回50.7)と13.9ポイント低下し、労働力の不足感は弱まる見込みである。

実働率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.0 11.5 51.1 30.4 5.9 (-28.7)</p> <p>今回 0.0 10.3 38.3 37.0 14.4 (-55.5)</p> <p>見通 0.0 4.1 26.7 38.5 30.7 (-95.7)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p>
実車率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.7 10.4 54.5 28.9 5.6 (-28.4)</p> <p>今回 0.4 9.7 40.7 36.4 12.7 (-51.4)</p> <p>見通 0.4 5.0 29.5 39.6 25.4 (-84.7)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p>
採用状況	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.0 15.3 62.2 18.1 3.4 (-7.5)</p> <p>今回 0.9 16.4 63.4 15.5 3.7 (-4.7)</p> <p>見通 0.7 13.5 58.7 20.2 6.9 (-19.1)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
雇用状況 (労働力の不足感)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 19.7 44.3 34.3 1.5 0.2 (81.8)</p> <p>今回 12.7 33.8 46.2 6.0 1.3 (50.7)</p> <p>見通 13.3 30.3 40.4 12.1 3.9 (36.8)</p> <p>■ 不足 ■ やや不足 ■ 適当 ■ やや過剰 ■ 過剰</p>

(注4)雇用状況については、上段は前回(R1.10月～12月期)の状況、中段は今回(R2.1月～3月期)の状況、下段は今後(R2.4月～6月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②:今回(令和2年1月~3月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲47.7(前回▲30.6)と17.1ポイント減少し、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲28.2(前回▲14.1)と14.1ポイント減少した。 経常損益は▲58.1(前回▲36.2)と21.9ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲75.3(今回▲47.7)と27.6ポイント減少、貨物の再委託は▲48.6(今回▲28.2)と20.4ポイント減少する見込みである。 経常損益は▲100.0(今回▲58.1)と41.9ポイント悪化し、経常損益の水準を下げる見込みである。

所定外労働時間	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.7 7.6 55.7 32.4 3.6 (-30.6)</p> <p>今回 0.6 5.0 47.1 40.7 6.5 (-47.7)</p> <p>見通 0.6 3.2 33.1 46.7 16.4 (-75.3)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より17.1ポイント減少した。 ・今後は水準を下げる見込み。 	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.7 12.0 61.1 20.7 4.5 (-14.1)</p> <p>今回 1.3 8.4 59.3 22.8 8.2 (-28.2)</p> <p>見通 0.4 7.3 51.0 26.0 15.3 (-48.6)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より14.1ポイント減少した。 ・今後は水準を下げる見込み。 	
経常損益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.5 17.5 36.7 36.0 9.3 (-36.2)</p> <p>今回 1.3 12.3 30.7 38.3 17.4 (-58.1)</p> <p>見通 0.6 3.7 22.1 42.4 31.2 (-100.0)</p> <p>■ 大幅に好転 ■ やや好転 ■ 変化なし ■ やや悪化 ■ 大幅に悪化</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より21.9ポイント悪化した。 ・今後は水準を大幅に下げる見込み。 	

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第108回調査は、令和2年4月1日に、モニターに対して調査開始、令和2年4月30日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
37	517	533

※一部回答事業者の重複あり

4 一般貨物:今回(令和2年1月~3月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲63.1(前回▲41.6)と21.5ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲4.4(前回14.5)と18.9ポイント悪化となり、営業収入(売上高)は▲57.6(前回▲36.0)と21.6ポイントの悪化となった。 営業利益は▲64.0(前回▲38.9)と25.1ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲105.6(今回▲63.1)と42.5ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲26.3(今回▲4.4)と21.9ポイント悪化することを受け、営業収入(売上高)は▲102.5(今回▲57.6)と44.9ポイント悪化と水準を下げる見込みである。 営業利益は▲104.8(今回▲64.0)と40.8ポイント悪化と水準を下げる見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.7 13.9 38.2 37.4 9.8 (-41.6)</p> <p>今回 1.2 10.3 29.2 43.1 16.2 (-63.1)</p> <p>見通 0.8 4.4 18.0 42.0 34.8 (-105.6)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.7 23.3 66.9 7.8 1.3 (14.5)</p> <p>今回 0.6 15.5 66.3 14.1 3.5 (-4.4)</p> <p>見通 0.4 8.5 65.4 15.9 9.9 (-26.3)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.7 17.5 34.8 39.1 7.9 (-36.0)</p> <p>今回 1.4 13.3 28.0 40.8 16.4 (-57.6)</p> <p>見通 0.8 5.2 18.4 42.0 33.7 (-102.5)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.5 16.6 34.6 40.0 8.3 (-38.9)</p> <p>今回 1.2 13.2 26.7 38.5 20.5 (-64.0)</p> <p>見通 0.6 5.4 19.3 37.9 36.8 (-104.8)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

5 宅配貨物:今回(令和2年1月~3月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 宅配貨物では、輸送数量は▲60.0(前回▲44.7)と15.3ポイント悪化、運賃・料金の水準は26.7(前回52.6)と25.9ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲46.7(前回▲39.5)と7.2ポイント悪化した。 営業利益は▲46.7(前回▲31.6)と15.1ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 宅配貨物では、輸送数量は▲86.7(今回▲60.0)と26.7ポイント悪化、運賃・料金の水準は13.3(今回26.7)と13.4ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲66.7(今回▲46.7)と20.0ポイント悪化する見込みである。 営業利益は▲66.7(今回▲46.7)と20.0ポイント悪化する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 10.5 44.7 34.2 10.5 (-44.7)</p> <p>今回 0.0 20.0 20.0 40.0 20.0 (-60.0)</p> <p>見通 0.0 20.0 13.3 26.7 40.0 (-86.7)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 2.6 47.4 50.0 0.0 (52.6)</p> <p>今回 0.0 33.3 60.0 6.7 (26.7)</p> <p>見通 0.0 20.0 73.3 6.7 (13.3)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 15.8 39.5 34.2 10.5 (-39.5)</p> <p>今回 0.0 20.0 20.0 53.3 6.7 (-46.7)</p> <p>見通 0.0 26.7 6.7 40.0 26.7 (-66.7)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 23.7 28.9 39.5 7.9 (-31.6)</p> <p>今回 0.0 20.0 26.7 40.0 13.3 (-46.7)</p> <p>見通 0.0 20.0 13.3 46.7 20.0 (-66.7)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

※ 宅配貨物に関する回答事業者は一部に限定され、またサンプル数が少ないため、上記調査結果は宅配貨物を網羅的に評価した結果となっていない。

6 宅配以外の特積貨物:今回(令和2年1月~3月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 宅配以外の貨物では、輸送数量は▲124.1(前回▲88.3)と35.8ポイント悪化、運賃・料金の水準は10.3(前回45.0)と34.7ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲110.3(前回▲63.3)と47.0ポイント悪化した。 営業利益は▲96.6(前回▲73.3)と23.3ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 宅配以外の貨物では、輸送数量は▲144.8(今回▲124.1)と20.7ポイント悪化、運賃・料金の水準は▲13.8(今回10.3)と24.1ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲144.8(今回▲110.3)と34.5ポイント悪化する見込みである。 営業利益は▲131.0(今回▲96.6)と34.4ポイント悪化する見込みである。

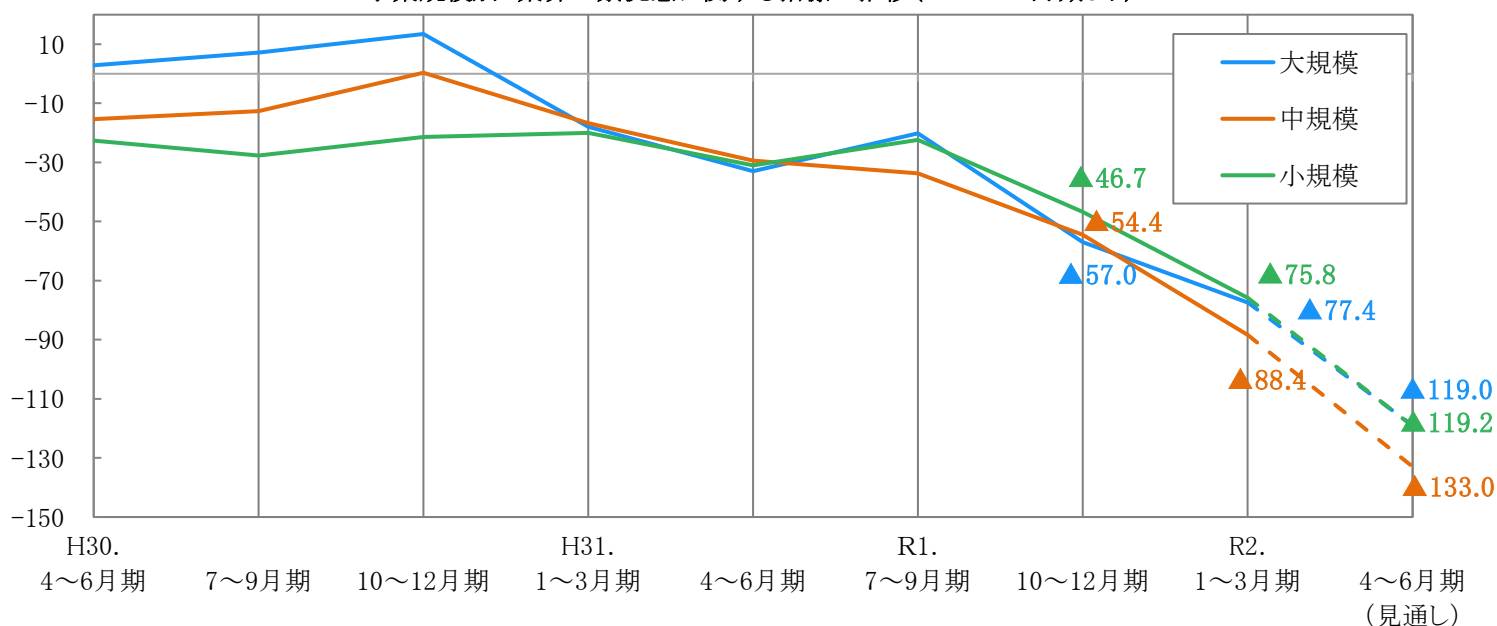
輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 3.3 28.3 45.0 23.3 (-88.3)</p> <p>今回 0.0 6.9 55.2 37.9 (-124.1)</p> <p>見通し 0.0 6.9 34.5 58.6 (-144.8)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.7 48.3 43.3 6.7 (45.0)</p> <p>今回 0.0 41.4 37.9 10.3 10.3 (10.3)</p> <p>見通し 0.0 20.7 55.2 13.8 10.3 (-13.8)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 10.0 28.3 50.0 11.7 (-63.3)</p> <p>今回 0.0 6.9 6.9 55.2 31.0 (-110.3)</p> <p>見通し 0.0 6.9 34.5 58.6 (-144.8)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.0 8.3 25.0 51.7 15.0 (-73.3)</p> <p>今回 0.0 13.8 10.3 41.4 34.5 (-96.6)</p> <p>見通し 0.0 6.9 3.4 41.4 48.3 (-131.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

7 事業者特性格別の特徴①:規模別・品目別 業界の景況感

規模 (注5)

- ・ 大規模事業者：▲77.4(前回▲57.0)と20.4ポイント悪化、今後は▲119.0と41.6ポイント悪化する見通し。
- ・ 中規模事業者：▲88.4(前回▲54.4)と34.0ポイント悪化、今後は▲133.0と44.6ポイント悪化する見通し。
- ・ 小規模事業者：▲75.8(前回▲46.7)と29.1ポイント悪化、今後は▲119.2と43.4ポイント悪化する見通し。

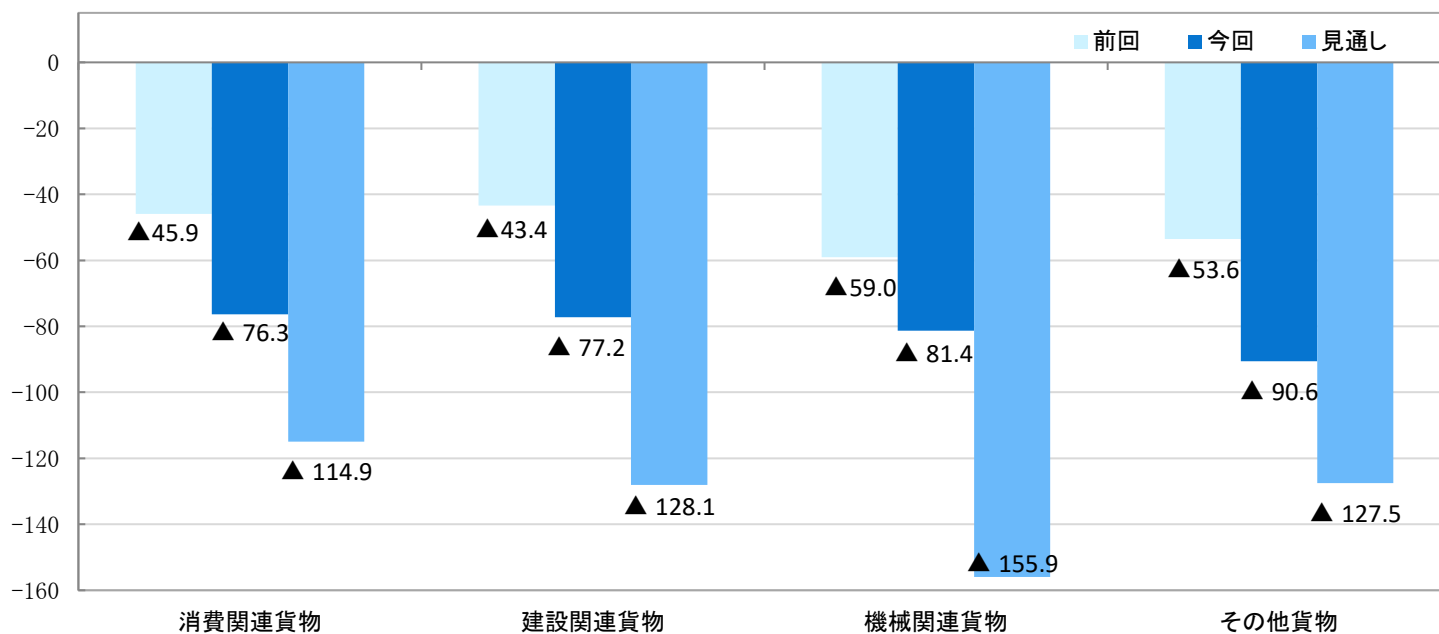
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移(H30.4～6月期より)



品目 (注6)

- ・ 「消費関連貨物」：▲76.3(前回▲45.9)と30.4ポイント悪化、今後は▲114.9と38.6ポイント悪化する見通し。
- ・ 「建設関連貨物」：▲77.2(前回▲43.4)と33.8ポイント悪化、今後は▲128.1と50.9ポイント悪化する見通し。
- ・ 「機械関連貨物」：▲81.4(前回▲59.0)と22.4ポイント悪化、今後は▲155.9と74.5ポイント悪化する見通し。
- ・ 「その他貨物」：▲90.6(前回▲53.6)と37.0ポイント悪化、今後は▲127.5と36.9ポイント悪化する見通し。

品目別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

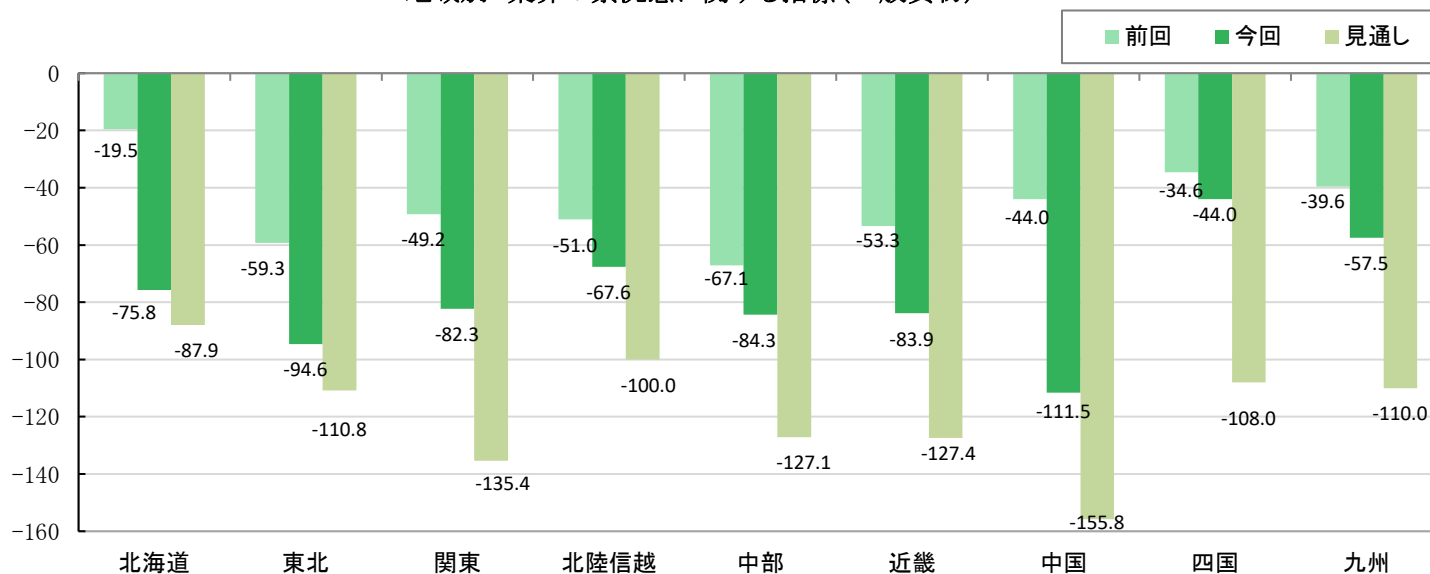
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性格別の特徴②: 地域別・事業形態別 業界の景況感等

地域 (注7)

- 一般貨物の景況感を地域別にみると、全ての地域で水準を下げている。
- 来期の景況感の見通しは、全ての地域で水準を下げる見通しである。

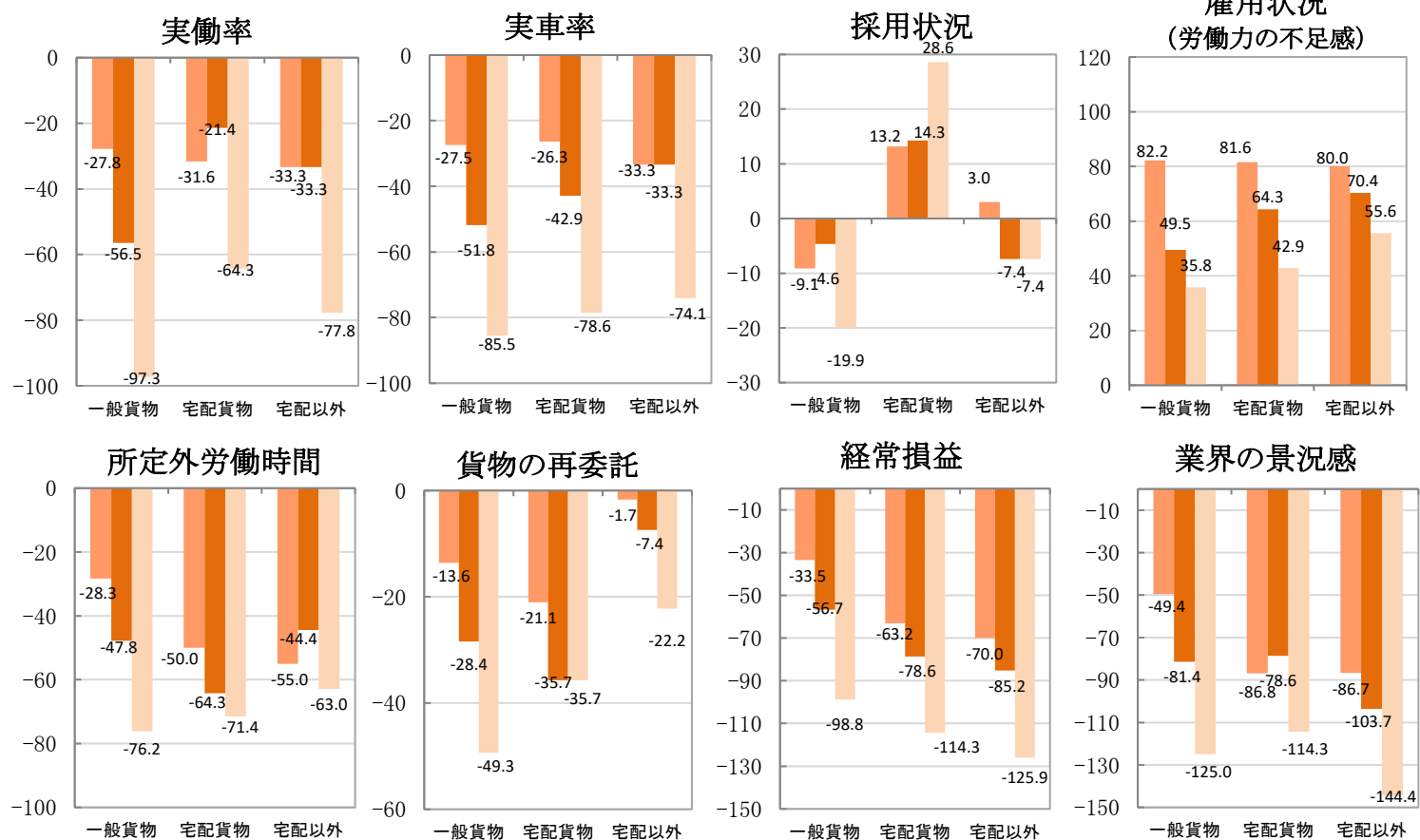
地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



事業形態別 (注8)

- 「一般貨物」、「宅配以外」において、輸送数量の悪化を受け、輸送効率(実働率及び実車率)及び経常損益は悪化し、業界の景況感は悪化した。
- 「一般貨物」、「宅配貨物」、「宅配以外」の全てにおいて、経常損益及び業界の景況感は悪化する見通しで、一層厳しい経営環境が予見される。

前回 今回 見通し

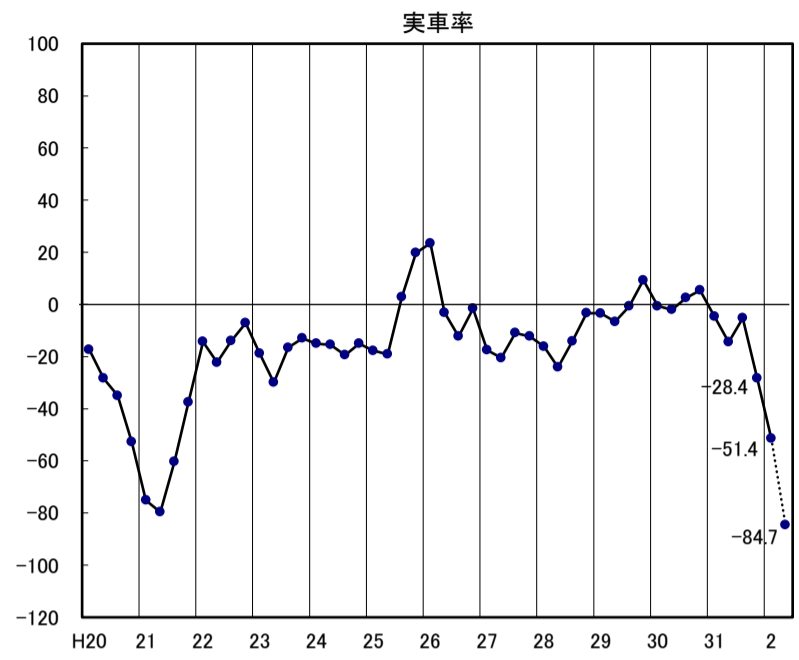


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和2年第2四半期見通し)

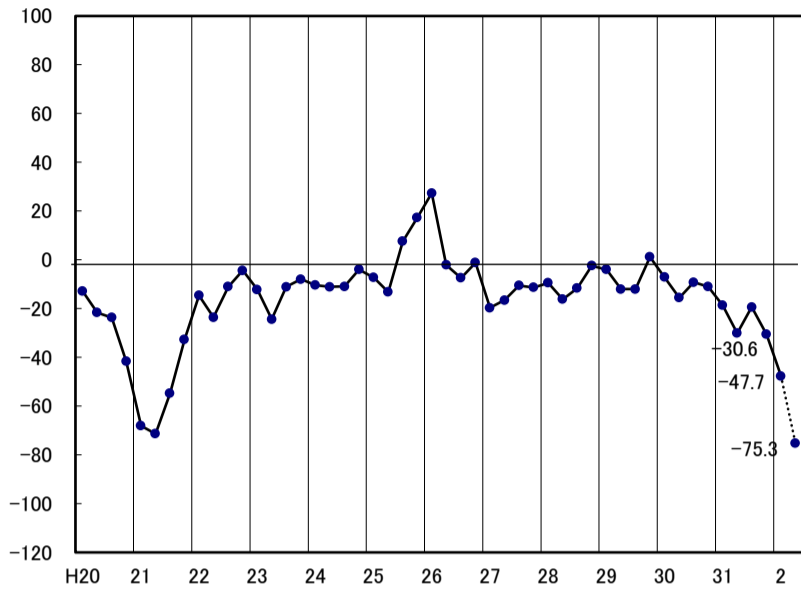
共通の概況①



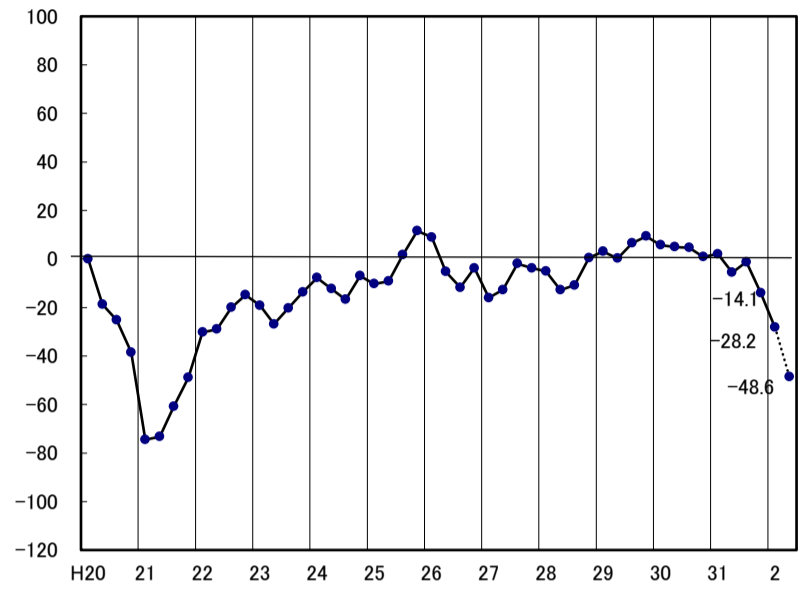
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和2年第2四半期見通し)

共通の概況②

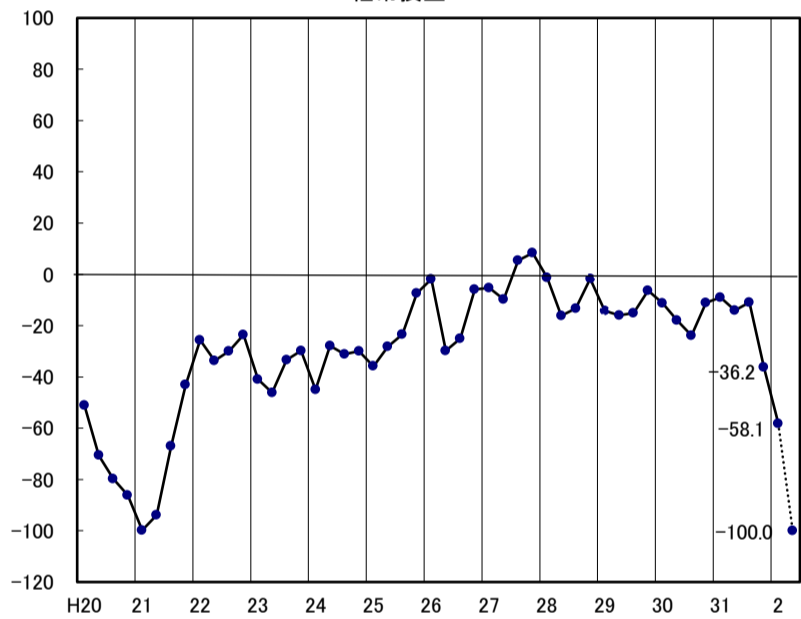
所定外労働時間



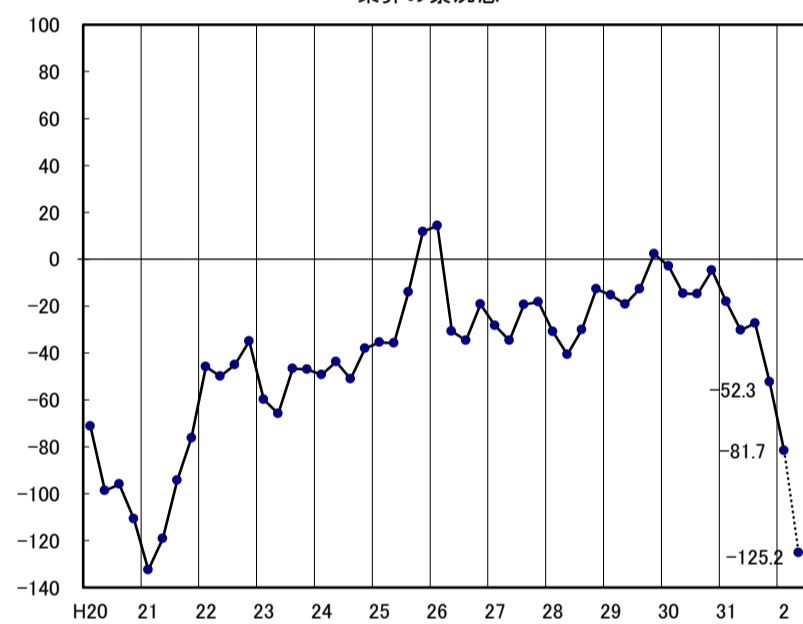
貨物の再委託



経常損益

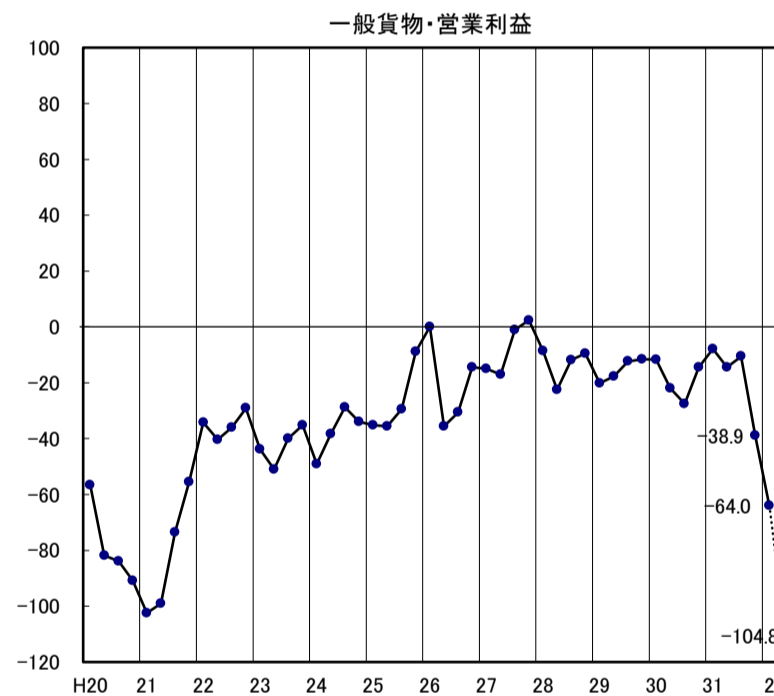
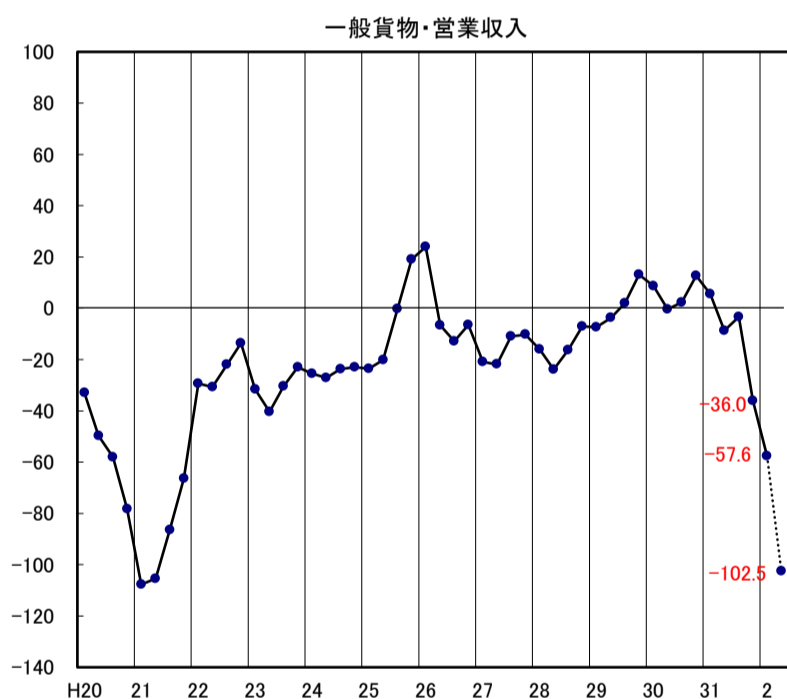
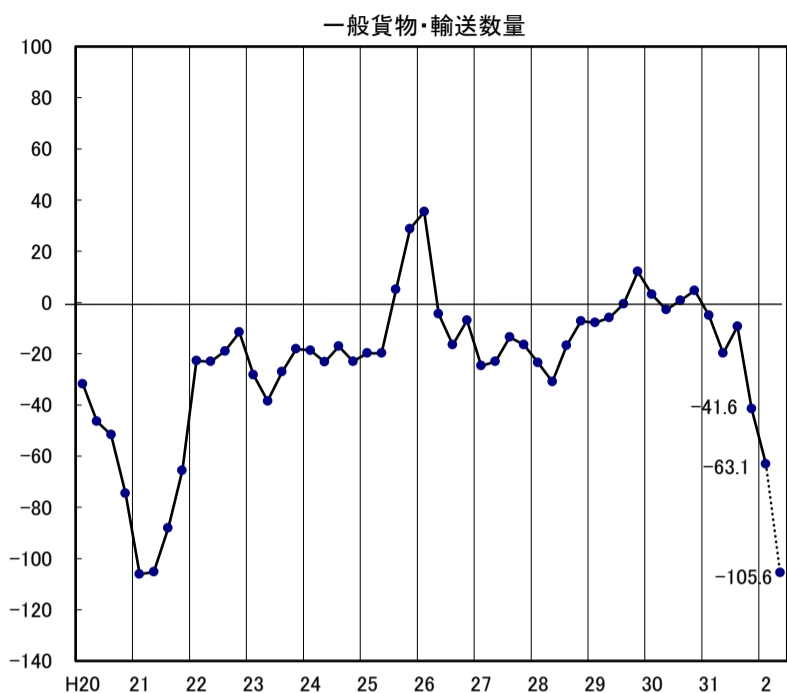


業界の景況感



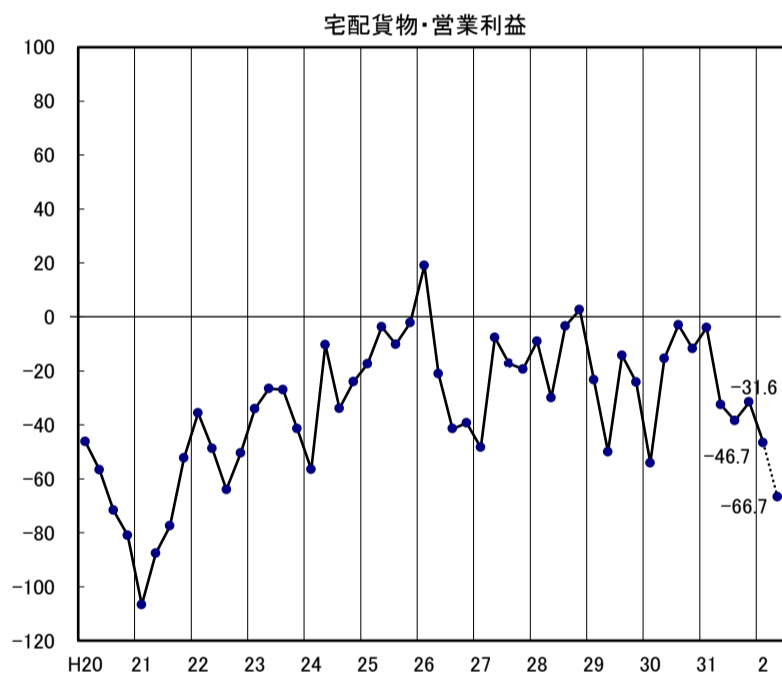
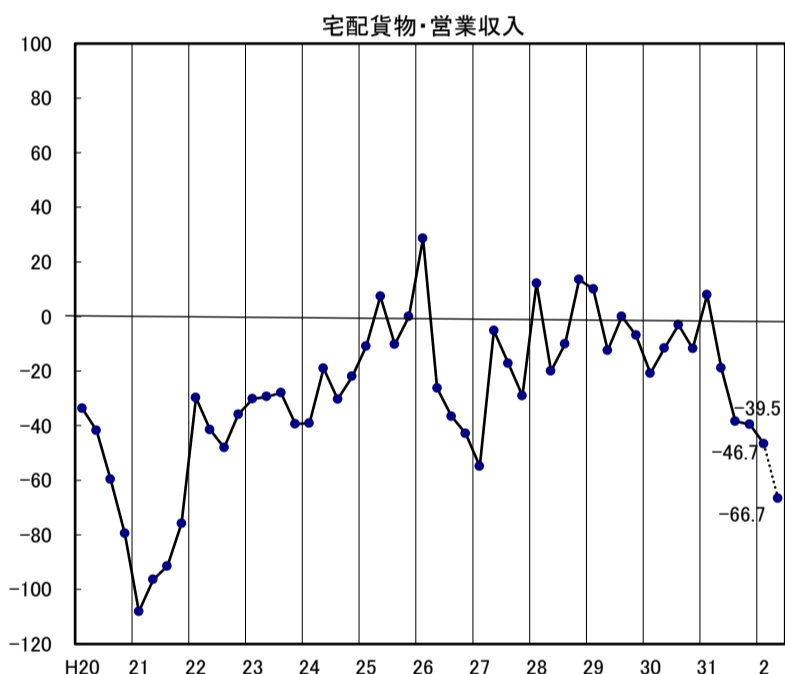
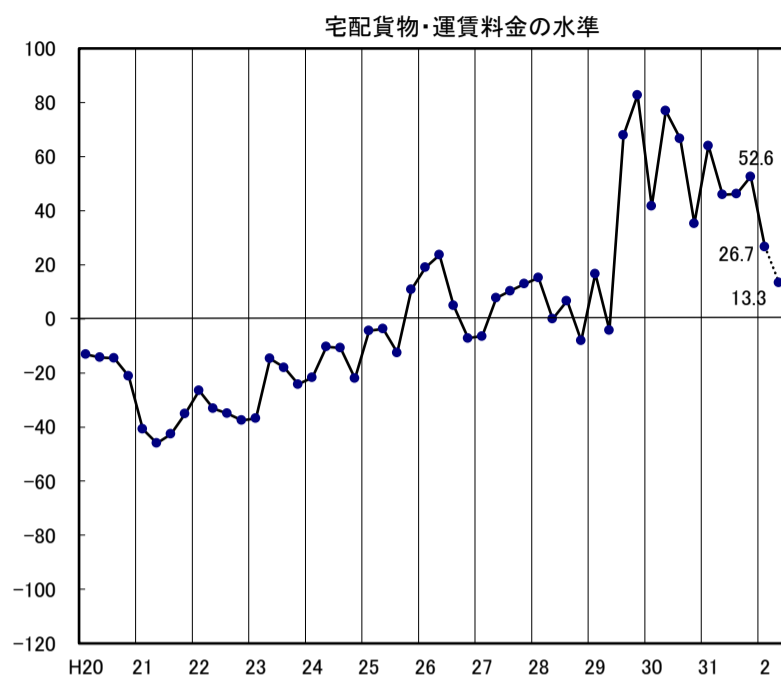
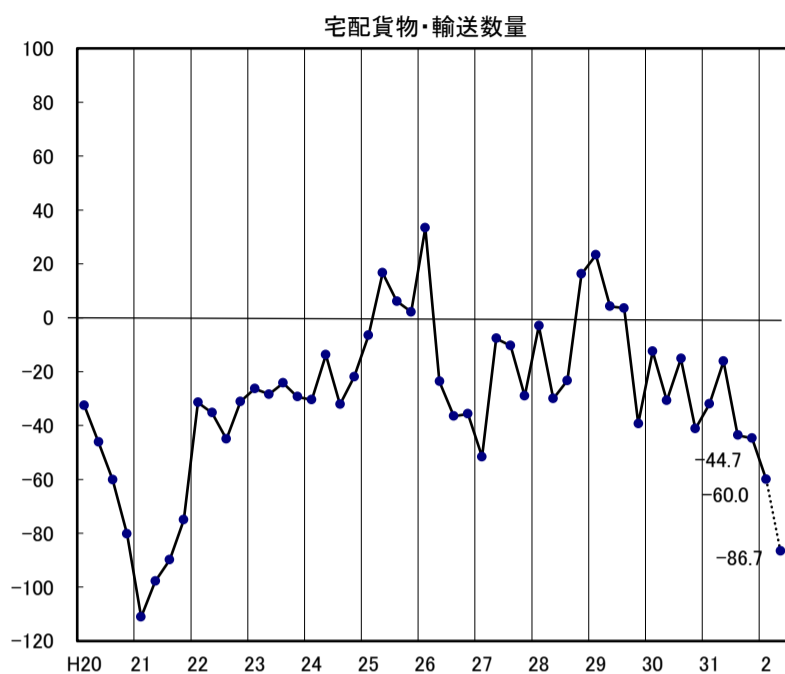
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和2年第2四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和2年第2四半期見通し)

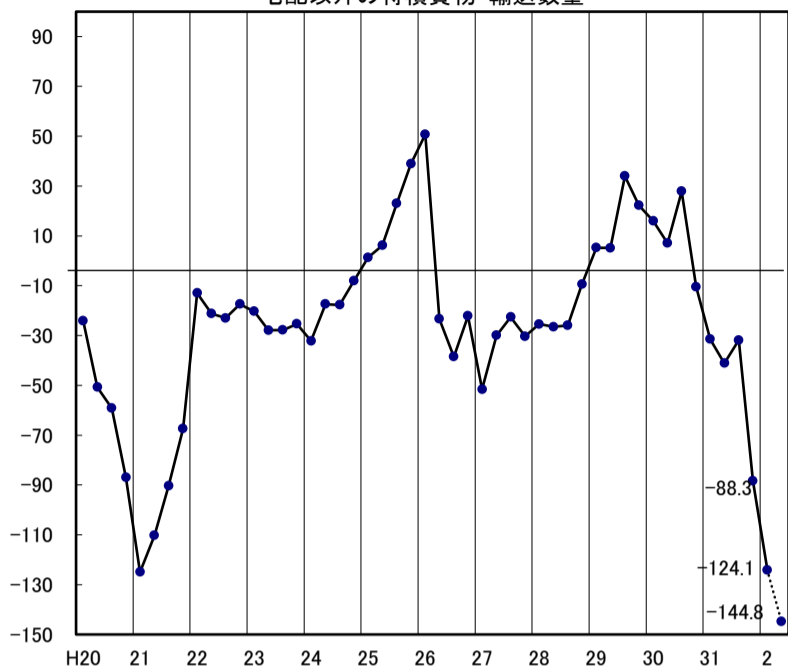
宅配貨物



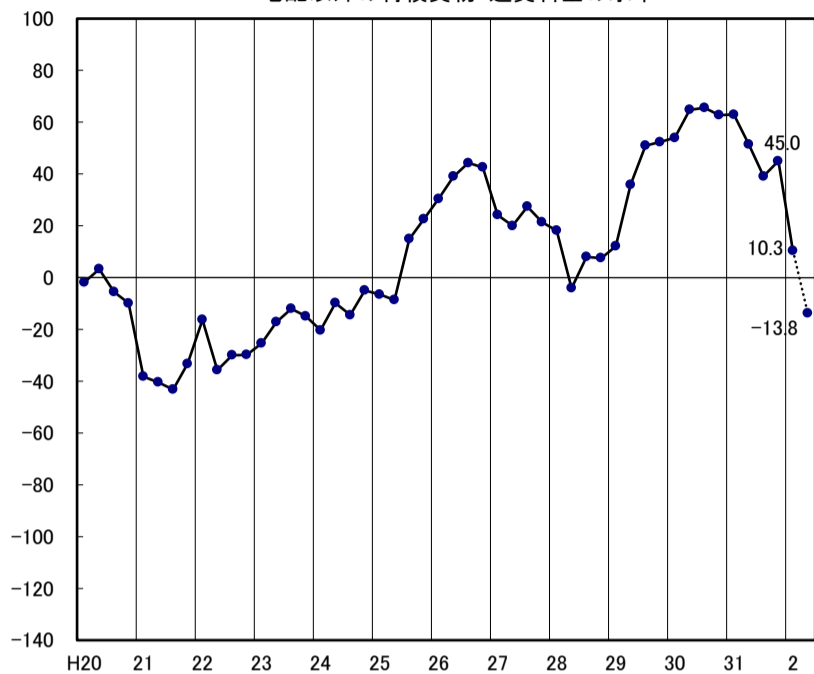
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和2年第2四半期見通し)

宅配以外の特積貨物

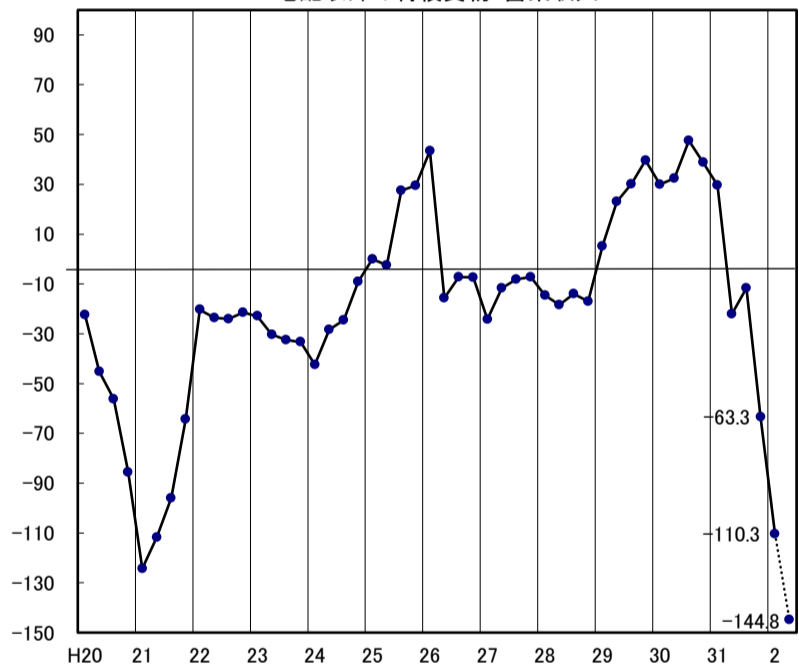
宅配以外の特積貨物・輸送数量



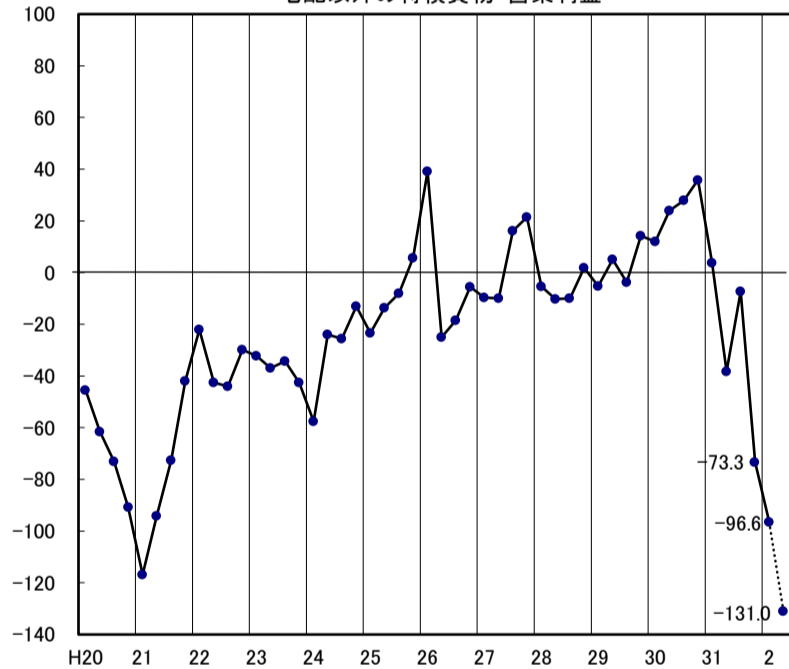
宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準



宅配以外の特積貨物・営業収入



宅配以外の特積貨物・営業利益



【参考資料】

標準貨物自動車運送約款改正に伴う料金の収受状況

